

Newsletter



日本教育情報学会
JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

No.25 1989.10.6

事務局：〒158 東京都世田谷区等々力 6-39-15 産能大学企画本部内
日本教育情報学会 運営本部事務局 TEL 03-724-8993

第5回日本教育情報学会年会 開催報告

8月22日(火)・23日(水), 日本教育情報学会第5回年会在富士通(株)関西システムラボラトリーにて開催された。

前日の8月21日には, 年会に先立って大阪大学創立50周年記念国際シンポジウムが開催され, 年会を含めての木田宏会長の挨拶があった。

22日の午前中は, コンピュータ及び映像の教育利用に関する先端的研究について「デモンストレーション」が2会場(コンピュータ・映像)で開催され, 午後からは, 「シンポジウム」が2会場(コンピュータと教育・映像と教育)に分かれて行なわれ各会場とも溢れんばかりの盛況のうちに終わった。また同時に, 教育機器・教材の展示も行われた。

23日は, 午前中に「情報教育」「コンピュータの教育利用」「CAI」「教材開発・学習指導」「教育情報ネットワーク」「専門学校教育・企業内教育」の6分科会に分かれて44名による「研究発表」が行われた。午後からは, 大阪大学教授深谷哲先生を座長として「教育情報ネットワークの諸問題」をテーマにシンポジウムが開催された。まず企業側として, 富士通(株)の塩出俊一部長から現在活用されているネットワークシステムについて, 日本電気(株)の松下茂雄部長代理より衛星を使った教育について, 日本アイ・ビー・エム(株)の松田寿子副部長より現在の教育情報ネットワークシステムの技術的なレベルについてお話をいただいた。次に, 郵政省の袖山徹課長補佐より5月に報告された教育情報通信システム調査研究会の概要について, さらに(株)河合塾の深沢梯佑部長から進学情報オンライン・システムについて, 大学入試センターの清水留三郎部長から大学情報を提供するハート・システムについて, 最後に岐阜大学教授後藤忠彦先生から大学側としてのお話をいただいた。それぞれの立場から現在直面している課題および今後の展望について御提言をいただくことができ, 盛況のうちに幕を閉じた。(シンポジウム「教育情報ネットワークの諸問題」については, 後日学会誌にて掲載予定)

第6回年会は, 1990年7月25日(水)に東京ガーデンパレス(湯島会館)にて開催する予定です。

F C A I の学校への影響

荻野 康男 (神戸市立須磨高等学校)

国立教育研究所の堀口先生が開発されたF C A I エグゼキュータは、1988年に全国の教育機関に提供され、これに携わっている研究者や現場の教師に少なからず影響を及ぼしつつある。筆者の勤務する学校も88年夏に提供を受け、本年度から本格的にF C A I エグゼキュータが使用される運びになった。英語科と社会科の教師各々が、ワープロやエディターを使ってコースウェアを作成し、2学期にはC A I を実施する。

F C A I エグゼキュータの開発の思想は、ここで議論するまでもなく、すばらしいものがある。従来のオーサリングシステムの欠陥を補い、なお、その上にC A I の普及という点から考えると、C A I を全国的規模で普及させるという効果のあることをまず第一に指摘しておきたい。

神戸市内の小学校、中学校、高等学校にマイコンが25台、50台と、学校によって台数は異なるが、ぼつぼつ導入が始まっている。機械が導入されても、ソフトの購入にともなう予算配当は少なく、複数のオーサリングシステムを購入する予算はつかないのが実情である。このような状況のもとで、各学校へ提供されたF C A I エグゼキュータは、C A I を普及させる上で、計り知れないものがある。

次にソフトの利用技術のレベルアップという点である。マイコンが導入されたすべての学校でオーサリングシステム、ワープロソフト、図形作成ソフト、表計算ソフト、グラフ作成ソフト、BASIC言語などF C A I を使いこなすのに必要な技術があるとは限らない。F C A I を使いながら多くのことを勉強するといった学校が多いのではないか。

F C A I の入門は、やさしいうえにオーサリングシステムと違って、相当複雑なことが出来るようになっている。ディスプレイ上で、少し手のこんだ細工をしようと思えばできるようになっている。それに応えてくれるのがF C A I である。その結果、副次的にソフトの利用技術の向上がおこってくる。F C A I の使用は、アプリケーションソフトやBASIC言語の高度利用という副産物がえられることが考えら

れる。これは、従来使用していたオーサリングシステム中心では考えられなかったことで、CAIの新たな展開になると思われる。(筆者は、CAIコースウェアをオーサリングシステムを用いて数本作成した経験を持っているので、効率的な面や簡便さを十分に承知しているつもりである。)FCAIは、従来のオーサリングシステムよりかえって面倒なところがある。これは丁度、C言語とBASIC言語の違いのようなもので細かいことが出来るということは、面倒な手続きを必要とするのである。FCAIについて、2番目にあげたいことは、全国教育機関での使用ソフトのばらつきが少なくなり、利用技術の向上が予想されることである。

全国教育研究所連盟が実施したCAIプロジェクトは、実験学校に16ビットマイコンが必要であることを全国に広めた。当時、神戸市では、8ビットマイコンと16ビットマイコンのどちらにするか議論が分かれていた。実験校に16ビットマイコンが提供され、機種を選定では、16ビットマイコンに軍配があがった。このように全国的に、これといった決定的なものもなく、手探りの状態にあるときには、ちょっとしたきっかけが、全国的に普及するものである。

3番目にFCAIのエグゼキュータがBASIC言語のオリジナルで提供されたことも大きい。マイコン業界では、ここ2~3年、BASIC言語の評価が低落傾向にあったが、マイクロソフト社がQuickBASICを発表してからBASIC言語が見直されるようになった。従来のBASICコンパイラは、真のコンパイラでなく、Pコード変換であって、真のマシン語になっていなかった。これに対して、マイクロソフト社が88年に発表したQuickBASICは、本物のコンパイラ語である。しかも、従来のBASICとの互換性を考えている。特に優れている点として、構造化言語であるということである。

このような状況にあるとき、FCAIがBASICのオリジナルの形で、全国の教育機関に提供された意義は大きいといわざるをえない。本校でもここ2~3年はBASICで使用し、本校独自のものとしてから、コンパイルして利用させて頂くつもりである。(1989.9)

コンピュータ教育利用セミナー

～情報教育のためのコンピュータ導入の課題～

日本教育情報学会 学校情報部会

場 所： 岐阜市加納大手町 74 岐阜大学附属中学校
交 通： 岐阜駅より岐阜バス「下川手（東陸橋経由）」、「岐南町平島」
「領下」，「岐南町三宅」行き 「加納附属学校前」下車
日 時： 平成元年11月17日（金） 9：30～16：00（受付9：00）

教育でのコンピュータ導入・利用について実践例の紹介も含め、下記のようなセミナーを開催します。学校、教育センター、教育委員会等の広く教育関係者の方々の参加をお待ちしております。

≡≡≡プログラム≡≡≡

9：30～10：00 「今後の情報教育について」

深谷 哲（大阪大学）

情報とは何か、また国語、社会、理科、数学、技術・家庭等の各教科での情報に関する望ましい教育についての課題

10：00～11：00 「パソコン導入時に準備すべきソフト」

大崎 宏（名古屋市立吹上小学校）

パソコンを学校で利用するとき、最初にどのようなソフトをいかに準備すべきか、またソフトを用いた学習指導で利用する教材についての説明

11：00～12：00 「学習でのパソコン利用と教材」

森 幸雄（学習情報開発センター），荒井 豊（岐阜市教育委員会）

CAIの学習ソフト、シミュレーション教材、個に応じた学習資料の作成など導入と同時に、初めて使う教師が有効にパソコンを活用するための教材と利用法の説明

12：00～13：00 「昼食」（学習ソフトの展示）

13：00～14：00 「教科および情報基礎での学習の道具としての利用」

若山皖一郎（香川大学），岡田 健（四日市市教育研究所）

社会、理科、算数・数学、家庭、情報基礎、体育などの情報教育で、これらの学習の道具として必要なソフト、教材についての説明と教育実践の紹介、およびこれらの一連のカリキュラム、教材を提供

14:00~15:00 「パソコンを用いた授業」 数学, 理科, 技術・家庭科
岐阜大学附属学校の先生方に, 実際の授業でのコンピュータ利用と, 授業案など実践資料を紹介していただきます。授業研究にお役立て下さい。
(パソコンが設置された時点での授業を, 今後設置される方々の参考にしていただくため, お願いいたしました。)

15:00~16:00 「パソコン設置の方法と望ましい施設」
学習情報開発センター, 加藤 直樹 (羽島郡川島中学校)
1台, 数台, 多数のパソコンの設置の方法とその利用法, それに併せ施設をどのようにすればよいかの説明 (施設について情報提供をお願いしています。)

《資料提供》・ビデオテープ
(パソコン導入の参考資料として, ①②のビデオテープを提供)
①学校におけるパソコンの利用
CAI, ドリル, 情報検索, 実験等, 学習指導でパソコンが1台から多数の台数までどのように活用されているかの実践記録
②中学校におけるパソコンの利用
パソコンのいろいろな設置例と活用の方法についての紹介
・講習テキスト, 実践資料 1冊 (約150頁)
(数学, 理科, 情報基礎, 家庭科等での情報教育に関する授業計画, 教材等)

《参加資料代》 6,000円 (参加費, ビデオテープ, テキスト等資料代含む)

《定員》 300名 (お早めをお願いいたします。)

《お申込》 ハガキでお申込下さい。

⑤502 岐阜市栄新町2丁目49番地 服部ビル2F

学習情報開発センター内

研究・講習会事務局

☎0582-94-6878

《締切》 平成元年11月4日

*学習ソフトの展示

「パソコン導入時に利用できる学習ソフト」「川島小学校, 中学校で使われている学習ソフト」「個別学習資料作成ソフト」「校内の各種教材等の管理システム」などを多数展示いたします。是非, 今後の研究やパソコン導入の参考にしてください。

*11月16日には, 小, 中学校の一貫性を考慮した「学校におけるコンピュータ利用等に関する研究発表会」が川島小・中学校で開催されます。この研究会に参加御希望の方は, 「研究会とセミナーに出席」とハガキに御記入下さい。この研究会については, 上記研究・講習会事務局までお問い合わせ下さい。

学会誌「教育情報研究」への投稿論文について、内容のより一層の充実を図るため、下記のとおり投稿要領を設けることとします。御意見等がございましたら、運営本部事務局まで御連絡ください。

日本教育情報学会誌 投稿要領

本誌「教育情報研究」への投稿については、この要領の定めるところによる。

1. 掲載内容

本誌は、教育情報に関する研究誌であり、原著論文をはじめ下記の論文等を掲載する。

(1)論文

- 1)原著 教育情報に関する独創的な研究結果の報告、あるいは、会員の参考資料として役立てることを目的としたデータ等をまとめたもの。
- 2)資料 研究報告、教育情報資料、特定の分野の現状等を広い角度から文献を引用して記述したもの。
- 3)寄書 研究速報など新しい試みやその結果、意見、提案、討論等を記述したもの。

(2)解説

特定の主題について専門外の者にもわかりやすく解説したもの。

(3)その他

研究会報告、講演録、研究情報等。

2. 投稿論文の条件

- (1) 論文については、内容の主要の部分が、未掲載のものであること。また一部が既発表である場合でも、それをさらに研究をすすめたものであることを原則とする。
- (2) 原稿は、刷り上がり（1頁24字×36行×2段）が、12頁以内であり、かつ偶数頁におさまることを原則とする。
- (3) 原稿は、原稿書式に従って執筆してあること。

3. 投稿原稿について

(1)投稿原稿は受理されると同時に、受理書が送付される。

(2)査読について

投稿原稿は、専門会員による審査の結果に基づき、編集委員会においてその取り扱いを次のいずれかに決定する。

1)採録

採録の結果を投稿者に報告する。

2)条件付き採録

照会後修正をすることを条件として採録する。なお、照会後3ヶ月以上経過してからの送稿については、新規投稿論文とみなす。

3)返戻

返戻理由を付して、原稿を投稿者に返す。

(3)査読基準

有効性、新規性、信頼性、了解性および論文の体裁の5項目を査読基準とする。

(4)校正について

投稿原稿は完成原稿とし、著者校正は1回のみとする。元原稿および原図面を訂正することは、原則として認めない。